


女性医師支援センター便り


 医学生・研修医のためのキャリアパス相談会（ランチ会）
 総合南東北病院，中嶋病院訪問

平成29年2月15日に、東北大学医学部で、女子医学生・研修医を対象としたキャリアパス相談会を開催した。本相談会は、宮城県女性医師支援センターと東北大学病院女性医師支援推進室の共催により開催されたもので、今回で2回目となる。

今回は医師側が女性医師8人（うち、宮城県女性医師支援センターメンバーとして、藤原実名美先生，福與なおみが参加），女子医学生が10人（5年生）集まった。

東北大学医学部では、平成28年度より医学教育推進センターのご協力を得て、「医師になってからのワークライフバランスを考える」をテーマに、医学部1年生と4年生に講義を行っている。子育てを理由に離職する女性医師の割合や、大学病院における女性医師支援制度の紹介、そして、ライフイベントを乗り越えながら医師を続けている現役の男性・女性医師に、ロールモデルとしての講演をしてもらっている。講義の一番の目玉は、学生同士によるディスカッションである。具体的には、夫婦共働きと仮定して、「診療中に突然こどもが発熱して、保育園からよびだされてしまった。どうする？」というような設定に対し、小グループに分かれた学生同士でディスカッションをしてもらうのである。結婚経験、ましてや子育て経験もない学生から出る考えや対策は、私たちが考えもしない発想であることもあり、とてもびっくりさせられることもある。

今回集まってくれた学生は、その講義を受けた初年度の女子医学生である。医師を続けることへの意識が高い女子医学生が集まってくれたように思う。ランチを食べながらのアットホームな雰囲気の相談会だったが、話題にあがる話の内容は、非常に具体的であった。自分の希望（研修をどこでするか、留学をどうするか）とライフイベントのバランスをどう取ればいいのか・・・など。

女子医学生が抱えている心配事などをみんなで共有して話し合うことができたこの会は、私たち医師にとっては「現在女子医学生が抱えている悩み」をリアルに感じることができる。本センターでの、今後の支援方法へのヒントになるので、ぜひ今後も続けていきたい。

（宮城県女性医師支援センター委員，東北大学病院遺伝子診療部助教 福與 なおみ）

平成29年3月9日，岩沼市の総合南東北病院において，女性医師支援セミナー〈仙南地区〉が開催された。高橋克子センター長の開会宣言に続き，総合南東北病院 松島忠夫院長，宮城県医師会副会長 櫻井芳明先生よりご挨拶を頂戴した。はじめに，宮城県女性医師支援センターの活動について，高橋克子先生より年度ごとのセミナー開催歴をご紹介いただいた。写真やエピソードを豊富に交えてのご紹介に，参加者も真剣に聞き入っている様子であった。また今回は，実際に子育てをしながら働く女性医師の声を紹介する形で，2題の演題を設けた。まず仙台医療センターの女性医師支援制度，中でも育児短時間勤務を産後の短期間利用して復帰への足掛りにした経験を私から紹介し，より職場への感謝や貢献したい思いで働いていると結んだ。総合南東北病院の麻酔科宮崎未来先生からは，ご自身の貴重な経験についてお話をいただいた。最初の妊娠・出産では周囲への後ろめたさから産後間もない復帰や長時間勤務の連続で，両立が困難となり医師を辞職されたそうである。しかし，ある時ACLS更新の講習会に参加した際，インストラクターの先生から復帰を勧められ，松島院長はじめ上司の麻酔科医に恵まれた環境で勤務と子育て

てを両立できることになった。宮崎先生は、恩返しとして自分にできることを、と術前患者のデータ収集の仕事を3か月分先までこなしておられるとのことである。感謝に溢れ、着実に仕事を進めるその姿勢に胸を打たれた。フリーディスカッションでは、松島院長の「今日の話に感動した。お互いを理解しようとする気持ちを大切に、働きやすい病院をめざしたい。」というお言葉に始まり、麻酔科上司の先生から宮崎先生への感謝、また女性医師が少ない脳外科の取り組み、育児だけでなく介護の問題はどうか、などさまざまな意見が活発に出された。

(宮城県女性医師支援センター委員、仙台医療センター内分泌・代謝内科 新妻 さつき)

平成29年3月22日水曜日、午後5時45分より仙台市内の中嶋病院において「女性医師支援センター意見交換会」を開催した。副センター長佐々木悦子先生が司会進行された。中嶋病院院長富永剛先生よりご挨拶をいただいた。先生は北海道に20年間在住し、昨年仙台に戻られた。これまで女性医師が夫の転勤に伴って職場を移るなどの経緯を見てきた。ご自身の学生時代は5%位の女子医学生が現在は3分の1を占める現状から日本の医療は女性の働きやすい環境整備が必要とお話された。次に宮城県医師会副会長櫻井芳明先生よりご挨拶をいただいて会は始まった。

はじめに女性医師支援センター長高橋克子先生が「宮城県女性医師支援センターの活動について」と題してお話された。これまでの女性医師支援セミナーや病院訪問など地道な取り組みを丁寧に報告された。少しずつではあるが確実に実を結んできており、これからも支援に取り組んでいきたいと結ばれた。

続いて安藤が「出産、子育てのしやすい病院を目指して」と題して話をさせていただいた。金上病院の院内保育所ニコニコ保育園は昭和62年に開設。現在は病院と老人保健施設の間に新築され、中庭付きの中心的位置にある。職員が常に子供達の姿にふれ、子育てに理解が深まる環境にある。その中で院内保育所を利用しながら勤務9年で4人の子供を出産し、それぞれ1年ずつ育休も取り仕事も続けた職員がおり、育休も引け目なく取れている。また保育園で育った子供が成長し、職員となり出産、その子もまた保育所を利用している。また、夏休み体験企画として「子供参観」を開催。お母さん、お父さんの職場を見学し、体験した。感想では、お母さん、お父さんのお仕事が見たいなあなど聞かれた。大切な子育ては職場みんなで応援していると結んだ。

次に「中嶋病院看護部の現状と取り組み」と題して総看護師長田中直子様よりお話をお聞きした。中嶋病院は病床数一般101床、回復期50床の計151床、ベッド稼働率は99%である。救急車搬送件数は年々増加傾向にあり、最近では3,000件を超えている。そのうち約3分の1が入院となる。医師数は18名、うち2名が女性医師。看護部職員数107名のうち8名が妊娠中、2名が産休中である。ワークライフバランスに重きをおいて、時間外勤務を極力減らす努力をしている。全国の時間外平均勤務が23.3時間に対して中嶋病院では2.4時間と約10分の1である。会議を白昼に開催、変則勤務を取り入れる等の工夫をしている。これからも女性の働きやすい職場作りに取り組んでいくとのことであった。

その後のディスカッションでは、富永院長は病児保育について、民間企業で取り組むよりも医師会や公的機関でぜひ検討して欲しいと答えられた。中嶋病院のリハビリリーダーからは、金上病院での子供参観はすぐに中嶋病院でも行ってみたいとのことであった。

(宮城県医師会常任理事、宮城県女性医師支援センター委員 安藤 由紀子)

NO PHOTO

総合南東北病院 松島院長

NO PHOTO

中嶋病院 富永院長